

2) 吉井川の河川整備について

吉井川水系の河川整備計画

○吉井川の河川整備は、**平成29年12月に策定した吉井川水系河川整備計画**に基づき進められており、長期的な治水目標である吉井川水系河川整備基本方針で定められた内容に対して、**概ね30年間で実施**する段階的な内容である。施設整備は、**洪水や内水、高潮、地震・津波等の災害を防止・軽減**することを目標としている。

主な河川整備の目標

洪水対策

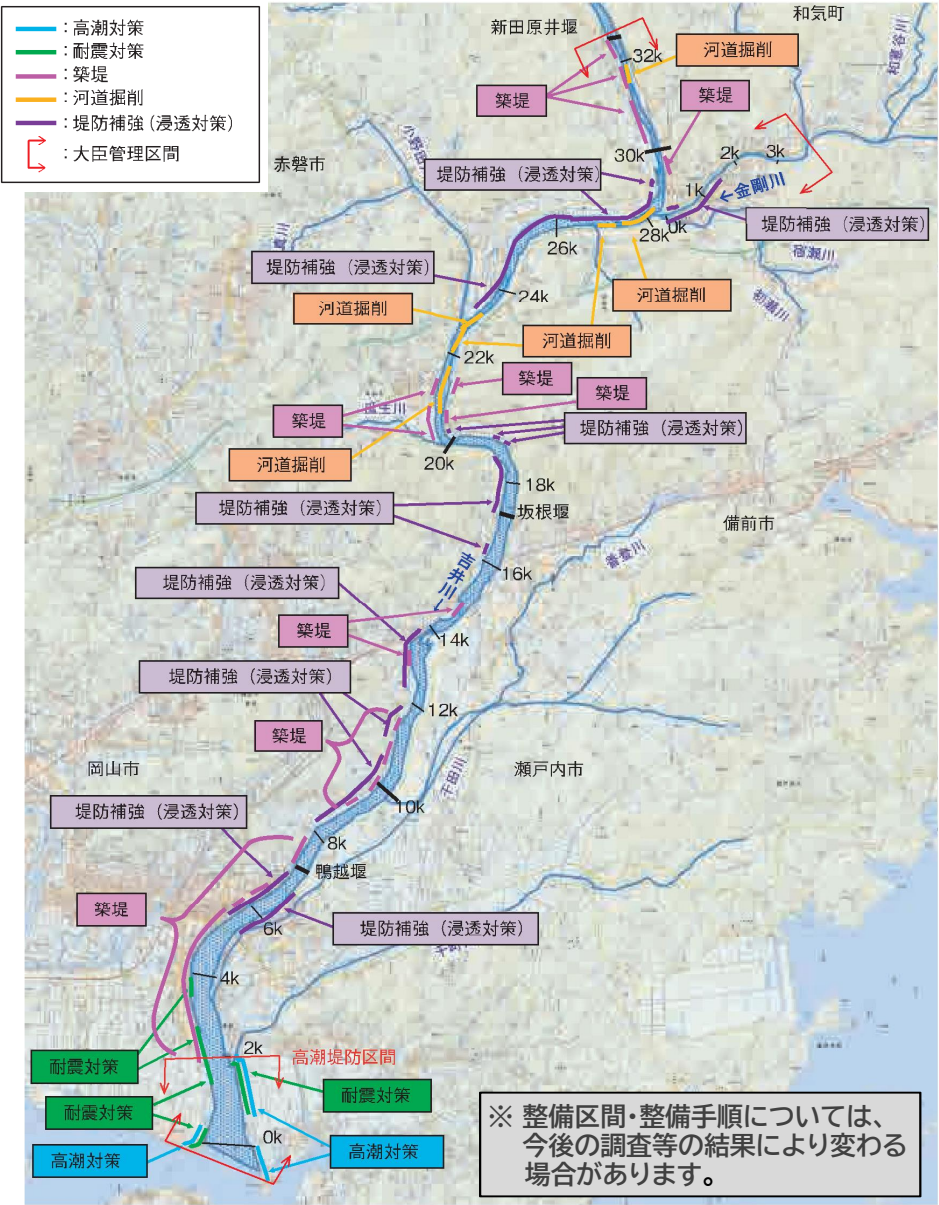
吉井川においては、戦後最大規模の洪水である平成10年10月洪水等が再び発生した場合でも洪水を安全に流下させ、越水等による浸水被害を防ぎます。また、金剛川においては、昭和51年9月洪水が再び発生した場合でも洪水を安全に流下させ、越水等による浸水被害を防ぎます。

高潮対策

既往最高潮位を記録した平成16年8月の台風16号による高潮が再び発生しても、河川からの浸水被害を防ぎます。

整備手順

実施箇所	河川整備計画対象期間(概ね30年間)
現在実施中の事業箇所(高潮対策・耐震対策)	
築堤箇所	
河道掘削箇所	
堤防補強(浸透対策)箇所	



河川整備計画整備箇所図

吉井川 高潮・耐震対策事業について

- 吉井川河口部は干拓により形成された広大な低平地(ゼロメートル地帯)であり、洪水や高潮等による浸水リスクが高い。一方で、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」の報告によると、太平洋側のプレート境界型地震により吉井川下流域では大きな影響を受ける可能性があると示されており、大規模地震が発生した場合、地盤や堤防の液状化等により、沈下や崩壊などで堤防の機能が損なわれるおそれがある。
- 国土交通省では、平成24年より吉井川高潮・耐震対策事業に本格的に着手している。

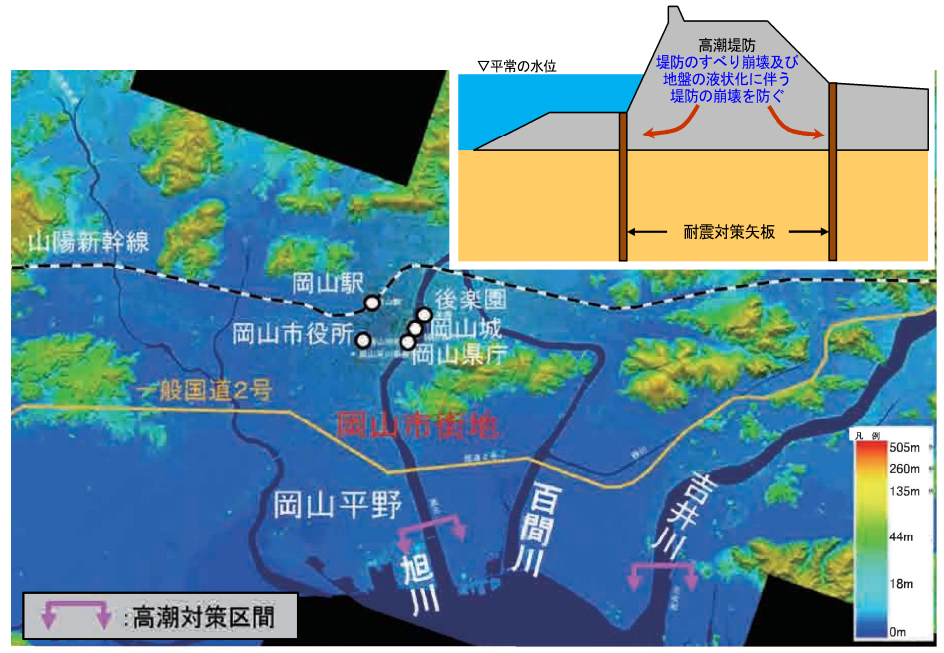
<整備範囲>



高潮対策: 既往最高潮位を記録した平成16年8月台風16号による高潮が再び発生しても浸水被害を防ぐ。これにより、想定されている津波に対しても被害防止に必要な堤防高を確保できる。対策区間は2.0kmより下流。

耐震対策: 南海トラフ巨大地震等の最大級の強さを持つ地震に対して、堤防の被害(沈下や崩壊等)を軽減し、河川からの越水を防ぐ。

<整備断面イメージとゼロメートル地帯>



<整備断面イメージとゼロメートル地帯>

